

2024（令和6）年度 ファミリーソーシャルワーク研修会 開催要綱

社会福祉法人 全国社会福祉協議会 中央福祉学院

1. 趣 旨

【本研修会の背景】

児童相談所における児童虐待相談対応件数が10年間で約15万件増加し、約22万件（令和4年度・速報値）と過去最多を更新しました。また、ひとり親世帯の子どもの相対的貧困率が44.5%と、OECD加盟国のなかでも高位で推移するなど、子ども・子育て家庭をめぐる課題は複雑化するとともに厳しさを増しています。

国においては、令和6年4月に施行された改正児童福祉法に基づき、児童虐待予防に向けた包括的な相談支援体制の強化として、こども家庭センターや里親支援センターの設置、こども家庭ソーシャルワーカーの資格整備が進められています。また、妊産婦等生活援助事業や親子再統合支援の事業の推進、子どもの権利擁護を図る環境整備等が図られており、子どもを取り巻く社会の転換期を迎えているといえます。

各自治体においては、昨年度に発出された都道府県社会的養育推進計画策定要領を踏まえ、令和7～11年度を期間とする計画策定に向けて、各都道府県・自治体で検討委員会等が立ち上がり、具体的な支援の取り組みが話し合われます。

親子・子どもを取り巻く社会の変化に対応し、施策の動きもふまえた支援を実現するためには、社会的養護施設等に配置されるファミリーソーシャルワーカーはもちろん、関係職員すべてに対して、入所児童とその家族への支援だけでなく、社会的養護施設等関係機関と連携しながら、必要な養育・支援につながっていない子育て家庭が抱える、幅広い課題に対応できる力が求められています。

【本研修会の目的】

本研修会では、改正児童福祉法や推進計画等で社会的養護施設等関係機関に求められる支援機能と各地における実践を学ぶとともに、職員の専門性を高め、多様な課題や背景を抱える子どもとその家族への支援方法について学びます。

本研修は、都道府県により社会的養護処遇改善加算対象研修となっています。詳細は、施設所在地の都道府県担当課に確認ください。

2. 主 催

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

3. 共 催

全国児童養護施設協議会、全国乳児福祉協議会、全国母子生活支援施設協議会

4. 後援（予定）

公益財団法人全国里親会、全国児童家庭支援センター協議会、全国児童自立支援施設協議会、全国児童心理治療施設協議会、全国自立援助ホーム協議会、日本ファミリーホーム協議会

5. 参加対象

家庭支援専門相談員、里親支援専門相談員、母子支援員、少年指導員、家族（保護者）支援に携わる児童福祉施設職員や関係機関職員、里親、ファミリーホーム養育者・補助者 等

6. 会 場

中央福祉学院（ロフォス湘南） 〒240-0197 神奈川県三浦郡葉山町上山口 1560-44

（公共交通利用の場合）

JR 横須賀線「逗子駅」、京浜急行線「逗子・葉山駅」から路線バス利用 約 25 分

京浜急行電鉄「汐入駅」から路線バス利用 約 30 分

（自家用車利用の場合）

横浜横須賀道路「逗子 IC」から約 15 分

7. 研修日程・定員・申込締切

下記の 3 日程で開催します。第 1 日登壇者、第 2 日分科会テーマが各日程で異なります。

（定員各回 200 名、合計 600 名）

【研修日程①】	2024 年 9 月 10 日（火）～9 月 11 日（水）	定員 200 名
【研修日程②】	2024 年 10 月 6 日（日）～10 月 7 日（月）	定員 200 名
【研修日程③】	2024 年 12 月 4 日（水）～12 月 5 日（木）	定員 200 名

第一次締切：8 月 9 日（金）

※定員に達した場合は、先着順とさせていただきます。

※多くの方にご参加いただけるよう、おひとりにつき 1 日程の申込をお願いいたします。

※8 月 9 日以降は申込数の状況で受付を行います。

※詳細は中央福祉学院ホームページにて随時お知らせいたします。

8. 受講料

19,800 円（税込）※旅費・宿泊費・食事代は別途

9. 修了証書

本研修会（研修日程①～③のいずれか 2 日間）を受講した方には、研修終了時に修了証書を発行します。

10. プログラム

第1日 **【研修日程①】 2024年9月10日（火）** **【研修日程②】 10月6日（日）**
【研修日程③】 12月4日（水）

時 間	内 容
12:00～ 13:00	受付
13:00～ 13:10	■開会・オリエンテーション
13:10～ 14:10 (60分)	■オープニングレクチャー 「私たちが取り組むべきソーシャルワークとは ～国・対象者の動向をふまえて～」 ・子育て世帯の変化や多様化する課題に対し、改正児童福祉法や推進計画が示す取り組みを通じ、関係機関・職員がもつべき視点について学びます。 〔講師〕 <u>【研修日程①（9月10日）、③（12月4日）】</u> ・河尻 恵 氏（日本福祉大学 教授） <u>【研修日程②（10月6日）】</u> ・澁谷 昌史 氏（関東学院大学 教授）
14:10～ 14:20	休憩
14:20～ 17:00 (140分) ※休憩 20分	■シンポジウム 「多様な養育・支援を展開できるファミリーソーシャルワークの実現をめざして」 ・改正児童福祉法や社会的養育推進計画のなかで打ち出された事業等について特にソーシャルワーカーとして身につけるべき視点について検討します。 〔登壇者〕 <u>【研修日程①（9月10日）】</u> 【進行】 ・河尻 恵 氏（日本福祉大学 教授） 【シンポジスト】 ・山田 勝美 氏（山梨県立大学 教授） ・中島 尚美 氏（大阪公立大学大学院 特任准教授） ・谷口 由希子 氏（名古屋市立大学 准教授） <u>【研修日程②（10月6日）】</u> 【進行】 ・澁谷 昌史 氏（関東学院大学 教授） 【シンポジスト】 ・渡邊 守 氏（特定非営利活動法人キアアセット 代表理事） ・栄留 里美 氏（西南学院大学 准教授） ・河野 洋子 氏（特定非営利活動法人 chields 代表理事、 大分大学福祉健康科学部 講師）

	【研修日程③（12月4日）】 【進行】 ・河尻 恵 氏（日本福祉大学 教授） 【シンポジスト】 ・渡邊 守 氏（特定非営利活動法人キアセット 代表理事） ・志村 浩二 氏（浜松学院大学短期大学部 幼児教育科長（兼） 子どもの未来創造センター長・教授） ・岡田 多恵子 氏（全国社会福祉協議会中央福祉学院 准教授）
17:00	第1日終了

※17:30 より、当日の夕食を兼ねた参加者どうしの交流会を開催します。（希望者のみ、費用別途。詳細は別途ご案内する宿泊案内をご覧ください）

第2日 **【研修日程①】 2024年9月11日（水）** **【研修日程②】 10月7日（月）**
【研修日程③】 12月5日（木）

時 間	内 容
午前 09:30～12:00 （150分） 午後 13:00～15:30 （150分） 計 300分	■テーマ別分科会 ※各日程につき、3つのテーマについて分科会を設定 子ども・子育て家庭の多様化する課題に対して、改正児童福祉法により進められる体制整備の取り組みを学び、新たな事業を活用しながら、社会的養護施設や関係者におけるファミリーソーシャルワークをどのように展開していく必要があるのか、テーマに分かれて検討します。 ※詳細は次頁参照
15:30	研修会終了

【第2日 分科会テーマ一覧】

	日程① 9/11	日程②10/7	日程③12/5
分科会 ①	「子どもの声を聞けるソーシャルワーカーとなるために」 講師：山田 勝美 氏（山梨県立大学 教授）	「里親支援のこれから」 講師：渡邊 守 氏（特定非営利活動法人キアセット 代表理事）	「里親支援のこれから」 講師：渡邊 守 氏（特定非営利活動法人キアセット 代表理事）
分科会 ②	「切れ目のない支援を支えるソーシャルワーク」 講師：中島 尚美 氏（大阪公立大学大学院 特任准教授）	「子どもの声を聞けるソーシャルワーカーとなるために」 講師：栄留 里美 氏 （西南学院大学 准教授）	「親子関係（再）構築のために必要な支援とは」 講師：志村 浩二 氏（浜松学院大学短期大学部 幼児教育科長（兼）子どもの未来創造センター長・教授）
分科会 ③	「当事者が求めるアフターケアの実践をめざして」 講師：谷口 由希子 氏 （名古屋市立大学 准教授）	「地域と連携したソーシャルワークの実践」 講師：河野 洋子 氏（特定非営利活動法人 chields 代表理事／大分大学福祉健康科学部 講師）	「切れ目のない支援を支えるソーシャルワーク」 講師：岡田 多恵子 氏（全国社会福祉協議会中央福祉学院 准教授）

11. 分科会内容

【研修日程①】2024年9月11日（水）

内 容
＜第1分科会＞「子どもの声を聞けるソーシャルワーカーとなるために」 ・意見表明等支援員が配置される等、職員一人ひとりが子どもの権利擁護について考え、実践することが今後さらに求められます。アドボカシーを実現する職員となるためのソーシャルワークを学び、実践につなげます。 ・キーワード…子どもの権利擁護、意見表明等支援員、「こどもの権利擁護スタートアップマニュアル」 〔講師〕 ・山田 勝美 氏（山梨県立大学 教授） 〔実践報告者〕 ・川瀬 信一 氏（一般社団法人子どもの声からはじめよう 代表理事） ・中尾 将也 氏（児童養護施設つばさ園 主任）（京都府）
＜第2分科会＞「切れ目のない支援を支えるソーシャルワーク」 ・切れ目のない支援を実現するため、とくに産前・産後からの支援を中心に関係者が持つべき視点を身につけるとともに、実践報告等を通して全国の取り組みを学びます。 ・キーワード…産前・産後支援、妊産婦等生活援助事業、特定妊婦、若年妊婦 〔講師〕 ・中島 尚美 氏（大阪公立大学大学院 特任准教授） 〔実践報告〕 ・藤野 育代 氏（母子生活支援施設 サン・フラワー華陽 施設長）（岐阜県） ・松岡 典子 氏（特定非営利活動法人サポートセンターみつくみえ理事長 助産師、一般社団法人全国妊娠 SOS ネットワーク理事）（三重県）
＜第3分科会＞「当事者が求めるアフターケアの実践をめざして」 ・施設等の退所、施設間移行に係る幅広い視野をもつとともに、対象者が本当に必要とする支援とは何かを考えます。あわせて支援者としてアフターケアを考え、実践するために必要なソーシャルワーク力を学びます。 ・キーワード…家庭復帰支援、児童自立生活援助事業、社会的養護自立支援拠点事業 〔講師〕 ・谷口 由希子 氏（名古屋市立大学 准教授） 〔実践報告者〕 ・軀川 恒 氏（乳児院 かのや乳児院 施設長）（鹿児島県） ・ブローハン 聡 氏（一般社団法人コンパスナビ 常務理事）

【研修日程②】2024年10月7日（月）

内 容

＜第1分科会＞「里親支援のこれから」

- ・里親支援センターの設置による関係機関の連携体制を検討するとともに、里親支援専門相談員の業務重点化を見すえて、社会的養護施設関係者による里親支援のあり方を検討します。

- ・キーワード…里親支援センター、里親支援専門相談員、フォスタリング

〔講師〕

- ・渡邊 守 氏（特定非営利活動法人キアアセット 代表理事）

〔実践報告〕

- ・原田 三津子 氏（里親支援機関 OHANA マネージャー）（福岡県）
- ・長田 淳子 氏（二葉乳児院 副施設長）（東京都）

＜第2分科会＞「子どもの声を聞けるソーシャルワーカーとなるために」

- ・意見表明等支援員が配置される等、職員一人ひとりが子どもの権利擁護について考え、実践することが今後さらに求められます。アドボカシーを実現する職員となるためのソーシャルワークを学び、実践につなげます。

- ・キーワード…子どもの権利擁護、意見表明等支援員、「こどもの権利擁護スタートアップマニュアル」

〔講師〕

- ・栄留 里美 氏（西南学院大学 准教授）

〔実践報告者〕

- ・高橋 温 氏（認定特定非営利活動法人子どもセンターてんぽ理事長 弁護士）
- ・飯塚 成亨 氏（児童養護施設 旭児童ホーム 家庭支援専門相談員）（神奈川県）

＜第3分科会＞「地域と連携したソーシャルワークの実践」

- ・在宅支援、地域支援への取り組みが求められてきているなかで、地域、他機関と連携しながら施設の多機能化をめざす方策を検討します。

- ・キーワード…在宅支援、地域・他機関連携、多機能化

〔講師〕

- ・河野 洋子 氏（特定非営利活動法人 chields 代表理事、大分大学福祉健康科学部 講師）

〔実践報告者〕

- ・堀 浄信 氏（児童家庭支援センターオリーブの木／児童養護施設 光明童園 施設長）
(熊本県)

- ・大関 晃一 氏（神奈川県社会福祉協議会福祉サービス推進部
福祉サービス推進課 課長）

【研修日程③】2024 年 12 月 5 日（木）

内 容

＜第 1 分科会＞「里親支援のこれから」

- ・里親支援センターの設置による関係機関の連携体制を検討するとともに、里親支援専門相談員の業務重点化を見すえて、社会的養護施設関係者による里親支援のあり方を検討します。
- ・キーワード…里親支援センター、里親支援専門相談員、フォスタリング

〔講師〕

- ・渡邊 守 氏（特定非営利活動法人キアアセット 代表理事）

〔実践報告〕

- ・原田 三津子 氏（里親支援機関 OHANA マネージャー）（福岡県）
- ・長田 淳子 氏（二葉乳児院 副施設長）（東京都）

＜第 2 分科会＞「親子関係（再）構築のために必要な支援とは」

- ・親子関係形成支援事業を運用するなかで必要な支援を行うために、アセスメントから支援を組み立てる展開方法に加えて、愛着の視点や施設連携・チーム養育を学びます。
- ・キーワード…親子関係形成支援事業、愛着形成、施設連携、チーム養育

〔講師〕

- ・志村 浩二 氏（浜松学院大学短期大学部 幼児教育科長（兼）
子どもの未来創造センター長・教授）

〔実践報告者〕

- ・齋藤 弘美 氏（母子生活支援施設 大田区立ひまわり苑 統括施設長）（東京都）
- ・他調整中

＜第 3 分科会＞「切れ目のない支援を支えるソーシャルワーク」

- ・とくに産前・産後からの支援を中心に関係者がもつべき視点を身につけるとともに、実践報告等を通して全国の取り組みを学び、切れ目のない支援を実現する方法を検討します。
- ・キーワード…産前・産後支援、妊産婦等生活援助事業、特定妊婦支援、若年妊婦支援

〔講師〕

- ・岡田 多恵子 氏（全国社会福祉協議会中央福祉学院 准教授）

〔実践報告〕

- ・藤野 育代 氏（母子生活支援施設 サン・フラワー華陽 施設長）（岐阜県）
- ・鬼束 咲子 氏（社会的養護自立支援拠点事業所 クオーラ 支援コーディネーター）
（宮崎県）

12. 申込方法など

○ 下記ホームページよりお申し込みください。

第1回 <https://forms.gle/NbLzo3yUzoxxQxiU9>

第2回 <https://forms.gle/FH1eHgGvf1ph3Y8d8>

第3回 <https://forms.gle/ktyrxms4PBGgvy9s5> ※受付終了しました

○ 申込が完了した場合、自動配信にて申込完了メールが配信されます。お使いのパソコン等でセキュリティのためメールの受信拒否設定をされている方は、Google フォーム「forms-receipts-noreply@google.com」、もしくは「fsw@shakyo.or.jp」からのメールが受信できるよう設定をお願いいたします。

○ 入金前の**取消**の場合は、「取消用フォーム」から参加者ご自身にて行ってください。

<https://forms.gle/bFjVK9y86DoFYuu38>



○ 申込をされた方には、受講決定通知・研修参加を勤務先へお送りいたします。なお参加票は研修会当日に忘れずにご持参ください。

○ 受講料のお振込については、受講決定通知に振込用紙がついています。振込期日を記載しておりますので期日中のお振込みをお願いいたします。

○ 講義要綱（研修会資料）は当日、会場にてお渡しします。

13. 研修期間中の宿泊・食事・交流会申込

研修会お申込完了後、自動配信にてお送りする申込完了メール、もしくは中央福祉学院ホームページ内ファミリーソーシャルワーク研修会のページにてご案内します。宿泊施設（ロフォス湘南等）・食事（交流会含む）を希望の方は別途案内期日までにお申込みください。

14. 入金後の参加費の取扱い

研修会参加費は、ご入金後のキャンセルによる返金はいたしかねます。資料の送付をもって対応いたします。

15. 申込・問い合わせ先

〔研修内容・研修参加申込に関するお問い合わせ先〕

社会福祉法人 全国社会福祉協議会 中央福祉学院 ファミリーソーシャルワーク研修係

〒240-0197 神奈川県三浦郡葉山町上山口 1560-44

TEL 046-858-1355 FAX 046-858-1356 MAIL fsw@shakyo.or.jp